

令和元年度 日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

プロジェクトNo.2019004

プロジェクト名 ラオスと日本両国における男女格差問題の比較

プロジェクトの概要

私たちのプロジェクトは、ラオス国内における民族間の男女格差について焦点を当てたものだ。ラオスは2018年度に発表された世界男女平等ランキングで26位と、日本の110位を大きく超え、途上国の中では劇的に男女平等が進んできている。この結果を踏まえ、ラオス国内においてどのような形でその格差を埋めたのかを調べ、日本の男女平等を進める手掛かりにしたい。そして、最終目標として日本国内で展示会を催し、多くの人に現地調査の結果を伝えたい。

プロジェクトの結果・成果

私達のチームは、ラオス国内のラオ族（ラオスの人口約50%を占める民族。）と、モン族（山地部などに住み、人口約9%を占める民族。）との男女格差の比較をしようと、2月上旬にラオス現地調査を考えていた。ラオスの都市であるビエンチャンを訪ねて、ラオ族の生活スタイルの観察をし、現地で男女格差に関する活動をしている団体へ訪問・聞き取りをする班と、ルアンナムター付近の村に住むモン族を訪ね、調査をする班の2つに分ける予定だった。渡航前の準備として、様々な団体とのアポイントを始めた。初めは、「ラオス女性識字教育センター」に目星を付けていたが、ホームページに更新が無いことや、国会図書館の書籍で情報検索を試みたが、全く該当がなかった為、断念した。最終的に7つの団体にアポイントをお願いし、「ホアイホン職業センター」という現地の女性への職業支援をする団体と会う運びとなった。その他に現地での質問事項の検討及び、ラオスの知識修得やラオス語勉強会の実施をメンバーで行った。

しかし、昨今問題視されている新型コロナウイルスの影響を鑑みて、本プロジェクトの海外渡航調査は中止となってしまった。日本に帰国後、「現地調査の内容や、SDGsについて写真などを用いた展示を開催する」という私たちの最終目標を達成する事ができず、大変残念だが、今回のプロジェクトを通して海外の民族研究をしている先生方、また、ラオス支援をポリシーとする学生団体の方とお話が出来たこと、そして何より日本ではあまり知られていない「ラオス」と言う国に少しでも関わったことは、私たち自身の成長に繋がったと思う。また、文理学部・危機管理学部・経済学部という学問の垣根を超えたメンバーたちと協力しながら、このプロジェクトの為に活動した期間は、大変貴重でかけがえのないものになったと強く感じる。

活動写真

【ミーティング風景】



【ラオス勉強会資料】

